



群馬県
かわばら
川場村

バイオマス発電で 農林業を振興

間伐材から造られる木質チップをエネルギーに

▼ 森林資源を活用したエネルギー開発と農産物ブランド化プロジェクト



木質チップを燃料とする「森林（もり）の発電所」。発電規模は45kW。

寄附活用事業の 概要

木質チップを発電に活用し、 村の特産品のブランド化を目指す

村土の約83%を森林が占める川場村では、かつては林業が主要産業の一つでしたが、木材需要の低迷や安価な輸入材の流入により長く衰退したままの状態が続いてきました。そうしたなか、2012年に清水建設株式会社と東京農業大学とで3者協定を結んで「ウッドビレジ川場」を設立し、森林資源を活用することによる**製材、発電、温室の3つを柱とする木材コンビナート事業**に取り組んでいます。本プロジェクトでは、製材所で製造される**木質チップを燃料とする木質バイオマス発電**や、**廃熱を利用した温室農業**を行います。これらの事業を通じて、**新たな産業を創出し、村内経済の活性化**へとつなげます。

寄附活用事業の 成果

森林が保全され、 新しい再生可能エネルギーの創出手段が確立

1. 山に放置された間伐材の活用方法が確立し、環境・景観保全に貢献
2. 温室で栽培されるイチゴが村の新しいブランド作物として定着し、冬季の観光客が増加
3. 雇用が拡大し、村内経済が活性化
4. 村と縁組協定を締結している東京都世田谷区内約40世帯に、発電された電力を供給
5. 木質ボイラーを導入した村内にある世田谷区の施設に木質チップを販売するなど、新しい事業を創出



発電所の廃熱を利用したイチゴ栽培

事業分野

環境保全・エネルギー

事業期間

2016年8月～2020年3月

総事業費

45,296千円

寄附額

6,500千円

寄附件数

8件

寄附企業名

株式会社エコ計画、
日本スキー場開発株式会社

■〈SDGs〉関連するゴール



地方公共団体 寄附受入れの経緯・工夫

村内に事業所があるなど、当村と縁のある企業に対し、電話等で企業版ふるさと納税や寄附活用事業について説明。興味を持たれた企業には**村長自らが出向き、当村で独自に作成した寄附活用事業を説明するチラシなどを用いて寄附を依頼**しました。人員が少ないこともあり、庁内で企業版ふるさと納税の営業体制を整えることが難しい状況のなか、村長によるトップセールスが寄附獲得につながりました。寄附企業名は当村の広報誌で紹介させていただきました。

寄附企業 寄附の経緯・効果

川場村でスキー場を運営しており、地域貢献の思いから寄附を決定。また、森林の環境保全や冬季の観光客の増加など、寄附活用事業の成功は当社の事業にもメリットがあると考えます。寄附後、同村の広報誌で紹介していただいたことで、企業のイメージアップにもつながっています。